



地区広報

おやまだ

第 14 号

平成 6 年 3 月 10 日



小山田老人ホームを訪問して

青少年育成部 里中則子

一月十六日、小山田鼓笛隊と、その指導にあたられている吉田先生のご協力を得て、小山田老人ホームを訪れました。

かわいい演奏に手で拍子をとるお年寄りたち、吉田先生の奏でるサクソフの響きに目を閉じて聞いている人も。

ゲームに入るといよいよ盛り上がり、子供の様に懸命になるおじいちゃん、おばあちゃん。

やっど子供達と仲良くなれた頃、もうお別れの時間です。「また会おうね。」とお部屋に戻る車を押す子供たち。

今回、青少年育成部は初めての試みとして、この様な機会を設けましたが、参加できて本当に良かったと思っています。

『人』

田舞徳太郎

人はみんな一人一人だけれど
そしてそれぞれに生きているけれど
お互いに支えあっている。
助けあっている。

私たちの何十年後は、今のお年寄りの姿です。

今、私たちが、お年寄りや助けの必要な人の手助けをする事はお互い様です。それはもちろん心のこもった、相手を思いやるやさしい心を土台にして……。どんな小さなことでもいい。何か人様のお役に立てることをする。そして子供達に大人のお手本でそれを教える。それが福祉の第一歩になる様な気がします。

高齢社会を共に生きるために 福祉モデル地区に指定されて……

▼小山田ふれあいフェスティバル



今、日本は世界一の長寿国になり、高齢化が急速です。

人生八十年代の地域福祉の推進、老人や身障者が一体となり、豊かな心で暮らしていける環境づくりへの市民の参加……。今どこに出かけてもどんな会議に出席しても、こんな話でいっぱいです。

今、私達地域住民一人一人に求められているのは、住民が一体となり、どんな姿で、どんな

福祉活動に積極的参加ができるか、行動で表わす福祉は何かを考えてほしいのです。

幸い小山田には二十一世紀の地域福祉のあり方に全国的にも有名な青山里会があり、この施設との協調の中で、大きい輪が育ちつつあります。

地域のために

積極的参加を

地区社会福祉協議会 矢田 正彦

事をしたりの楽しい時間を持ちました。

今を盛りの若い人たちが舞台で唄う姿と、自分の青春を思い出すかの様に拍手をしている老人達、その中にいて私は、どの時も、みんな大切

昨年十月には、小山田ふれあいフェスティバルが青山里会びあホールで開催され、一人暮らしの方、寝たきり老人介護者、施設入居者の方々に地区社協福祉部員、民生委員さんたちのお世話により、招待して、ショーを見たり、食

域住民のニーズに合った福祉は何かを考えています。

健康な人が病人を見て、かわいそうだとか、不幸な環境にある人に同情する事ではなく、相手の苦しみや悲しみを自分のものとして受け止め、共感し、どんな形でもよいか、力を貸し合い、行動で示すことが大切です。皆で支えあっていくことが大切です。

今、地区社協では、青山里会の協力を得て、「見守り安心ネットワーク」づくりに取り組みたいと計画しています。このシステムは、まだ全国にも無い事業です。

住みなれた、豊かな小山田の住民が、他人事ではなく、自分や家族のための事業として受け止め、自主的に参加して頂きたい、前進して頂きたいと願っております。

福祉とは

「安心して暮せる

仕組・取組である」

民生委員 辻 篤

私はこの言葉に感動を覚えます。

私達は、多くの人の力によって秩序が保たれ、暮らしが守

られていることに気付かされられます。福祉施設等、恵まれた環境の中で病む時も健康な時も暮らしは守られております。

人の命は尊く、健やかな身体は知恵とその働きにより、生活が高められます。心

納得のできる言葉、会話こそ大切です。見守る心、思いやる

心、無我の心こそ、福祉の心と教わっています。

助け合いの社会、信じ合う社会こそ、理想社会でしょう。

「禍福はあざなう繩の如し」表裏一体、ゆるぎなく、変ることのない幸せこそ、誠の願い

であります。

私達は常に人として、安心して暮せる事に感謝しなければなりません。

福祉という言葉は「この人生に幸あれ」と祝福の言葉と受けとめております。

皆様方にも地域において、見守る社会、助け合う心、拝み合える人として、生活福祉実現の為に、賢明な知恵とご協力を賜りますよう心からお願い致します。

高齢化社会の中で 前向きに充実した 人生を送りたい

小山町老人会 山本 隆彦

福祉国家、社会福祉、老人福祉、あるいは、デイサービス、ケアハウス等々、近年、巷間この「福祉」という言葉が、或いはこれに関連した言葉がしきりに聞かれ叫ばれるようになってきたが、なかなか中のある、奥行のある、一日としてゆるがせにできない、また多くの方々の手を煩わさなければならぬ、しかも、随分お金のかかる仕事である。と同時に報道される、ソマリア、ヘルツェゴビナ等の人々の生活と考えると何と幸せな日々を送らせてもらっていることか、これも我国の「福祉行政」が行き届いているからだと、今更ながら感ぜざるを得ない。

今や日本は世界一の長寿国となり、六五才以上の高齢者は平成元年の統計で総人口の十一%を超えたとか、二人で一人の老人を支えなければならぬそうで、「人生八十年、花の生涯」も手放して喜べない社会の到来である。三Kとか三Mとか言っていて、前者は健康、経済、家族を言うのだそうで、後者は英語で医学、金、心を指すとか。中でも健康は誰しもが第一に切望することで、これを維持するには、適度の運動とバランスの取れた食生活から、とは全ての医師、その他識者から、耳にタコの当たる程聞くことであるが、要は各自の自覚と実行力、継続する意志の如何にかかっているのである。人は一日一日と老いる。自分はまだまだ若い大丈夫だと思っているうちに何時の間にか身体は衰えているのである。大丈夫のうちに行動を起すことこそ大切なのである。それに近年痴呆性老人云々の話を聞くと誰しもその防止策としてあれこれ考えさせられる。折角この世に生をうけて無為に一生を終るのではなく、大いに生きがいのある人生、人生をエンジョイしてこそ人間の人間たる所以ではなからうか。

新聞等で余暇の活用法等が色々紹介されているが、市民

センター等で催される各種のサークル、講習会、或は老人会等での観劇会、スポーツ大会、旅行等々積極的に参加し、大いに老人なりの勉強もして、仲間を増やし、心にゆとりを持つことこそ痴呆を防止する唯一の道ではなからうか。我が国の福祉施設は諸外国に比べてまだまだという人も無いではないが、前記したように一昔前に比べて、何とありがたい世の中になったことか、しかしこれに甘えることなく日々感謝の気持を持って常に謙虚に生きて行こうではないか。

福祉の主体は住民にあり

青山里会職員 地区広報部 田中 明生

私たちが考える「安心して暮せる町」とは、一体どのような町なのでしょう。子供には、子供が安心できる空間(町)があり、青年、壮年、老年といった世代にもそれぞれが考える「安心して暮せる町」があると思うのです。

近い将来、この小山田地区も老人層が多くなる事は確実です。健康で自分の身に自信がある時は意識しなくても、自分

や身の廻りに何かがあった時に、今迄と変りない(不安のない)生活を送る事ができるでしょうか? 何かが起ってから受けるのが「福祉」なのではなく、又福祉を受ける対象者は、高齢者や障害者を持っている人とは限らないと思うのです。「福祉」の対象者は、私たち全てであり、私たちは生まれ、自然環境をも含めて、私たちの生活を守ってくれるの

が、「福祉」だと思っております。私たちは今だけを考えるのではなく、自分達の将来を考え、この小山田地区を生活しやすい町に育てる為に、住民一人一人が主体となつて、何を改良し何を充実すれば、今以上に住み良くなるのかを考えなければいけないと思っております。青山里会も本年度から、小山田地区社協のメンバーとして、地域のいろいろの事業にも参加させて頂きました。地域に根ざした福祉施設として、皆さんと共に歩みたいと思っております。

婦人会活動をとおして 助け合いの大切さを

山田町婦人会 矢田 安井



防災訓練のおにぎり炊き出し

今年、婦人会役員として色々の福祉活動に参加する事ができ、心豊かな一年でした。私の家族も老人福祉の方にお世話になっていて、とても感謝しています。嫁いで三十年間母と一緒に暮らしてきました。別に大病もせず、気丈な働き者の母でしたが、亡くなる一年半程、

寝たきりの生活になってしまいました。家族が力を合わせ、心を一つにして、出来る事はしていても、家庭介護はむづかしく、やはり病人の思うようには出来なくて、困りはてていました。そこへ訪問看護の方に来て頂く事が出来、丁寧に教えて頂いて、本当に助かりました。これから、高齢化社会に向けて、より以上の福祉の充実が望まれます。明日は我身、今の内にもっとお役に立ちたいと思います。

青山里会を、小山田地区の財産の一つとして、地域福祉の向上に役立てれば幸に思います。



車椅子、上手に動かせますか?

この一年



和无田ふれあい'94

自治会 中田 正

「やあ！久しぶりやなあ」
町内の会話である。
小さな町内なのに一年近く
会ったことがない人もいる。
戦後の物不足時代から高度
成長時代を経て、今日の満ち
たりた世の中になるに従い、
昼間町内から人の姿が消え
て、国民みんなが中流生活の
意識を維持するため忙しい毎
日を送っている。

そこで、町民全員が顔を合
わせる機会が作られないかと
いう思いから「和无田ふれあ
い'94」を催すことになりました。
行事内容の発想はごく単純
で、現在の飽食に飽き、昔、
家で作った「そば」を食べた
いと、減反地を借りて、「そば
作り」が始まりました。
「そば」の実を真近に見る
のは初めてと言う人が半分以
上でスタート！ 自然の生命
力に助けられ、それなりに収
穫。市販のそばを買うより高
かった手数料で製粉してもら
った、貴重なそば粉の前に、
大人から子どもまで、悪戦苦
闘、集落センター屋外までも
拡げて、三百人分の「そば」
の出来上り。
味は皆の努力の味で一段と
すばらしい？
その後「グランドゴルフ」
「凧上げ」と久しぶりの顔合わ
せで一日を楽しく過ごしまし
た。
今回の行事が町内のふれあ
いと発展に続いていけばと思
っています。



どうぞ無事故で！

交通安全小山田支部 清水 日出代

「マナーアップ三重」運動の一環として婦人部の九
人でマスコット人形を六百個作り、秋の交通安全期間
内に、安全運転を呼びかけて、ドライバーの皆さんに
配りました。



敬老の日プレゼント

婦人会 森田 洋子

婦人会は地区の高齢者の方
にプレゼントをしています。
今回は身体にぐるっと巻け
るバスタオルを贈りました。
人数も年々増え続け、包装
も一日がかりで大変でしたが、
お渡しする時のふれあいと喜
びの笑顔を想像しながら、心
を込めて包みました。
私たちもいずれば頂く立場
になります。その時には贈っ
た時の事を思い出し、なつか
しい気持ちで感激するでしょう。
これからもがんばりたいと
思います。

青山里会の小山田温泉まつ
りの行事として、開催されて
いたカラオケ大会へ、今年か
ら地区社協が後援として参加
しました。
歌の間に振りを入れる人、
着物やステージ衣装の本格
派、デュエットで仲良く唄う
人、等々約六十名が参加して、
唄う楽しみ、聞く楽しみ、見
る楽しみを十分に味わいまし
た。
今年も、開催の予定だそう
です。皆さんもどしどし参加
して下さい。

熱唱 カラオケ大会

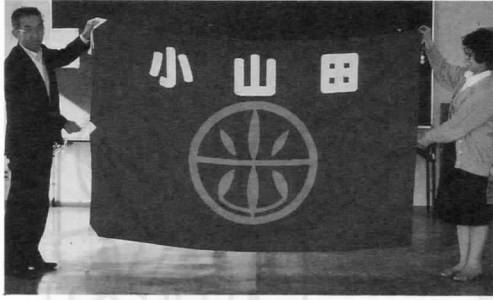
鹿間町 近藤 光子



おやまだ

新しい小山田地区旗

保健体育部 古市 義勝



今迄の小山田地区旗は、マークだけで、ネームが入っていませんでしたので、市の体

育大会などに出席しても、わかりにくく、残念だという声がよく聞かれました。

地区大運動会も二十回目を迎える事になり、それを機会に、遠くから見てもパッと目につくものに作り変えてはどうかと、社協役員会で決まりました。

委員を決めて、デザイン、色など、他地区の写真や、見本のカatalog等を参考に話し合い、水色の地色に、ピンクのマークと文字で清々しい印象の地区旗が出来上がり、運動会、体育祭にと気分一新、かかげる事ができました。

グランドゴルフでリフレッシュ

堂ヶ山町老人会 古川文夫



鈴鹿の山を西に眺め、南は内部川の清流を望む、絶好の場所にあったゲートボール場が、荒れ放題になっていたので、山土を入れ重機で均し、会員の協力を得て、元の二倍の広さのグランドゴルフ場が出来上りました。
昨年十月より、地元の体育振興委員さんの指導を受けて週二回楽しんでいましたが、回を追うごとに参加者が増え今年からは、水、土、日曜日の週三回、和気あいあいと楽しくプレーしています。
春になると満開の桜の木の下で楽しめます。皆様も是非一度お出かけ下さい。

小山田ふれあいフェスティバル

生活福祉部 坂崎司郎



生活福祉部も年々更なる向上を目指して、多様化する福祉ニーズに対応し、地域に根ざした活動を創意工夫を重ねております。

平成五年十月二十三日「小山田ふれあいフェスティバル」

が地区の青山里会びあホールで開催されました。昨年度までは一人暮らし老人だけの参加でしたが、今回は青山里会や関係各位のご協力により、ねたきり老人介護者、四季の里、青山里会の入居者等、多数の出席で開催できました。
テレビでお馴染みのいくよ・くるよの両人、舞妓さんの京舞、平安衣装のキャンペーンレディの紹介、地域の老人男女をモデルに十二単衣の着付ショー、西沢伸正氏（名古屋造形短大教授）のトーク、又バイキングの昼食をはさんで、

カラオケ大会と、笑いと感動の楽しい一日を過ごしました。

神明神社と墓地清掃

小山町老人会 後藤 武夫



小山町慶寿会では年間計画に従って、毎年三回、東西両墓地と神明社の除草、清掃を行っています。すっかり美くなりました。

フワリ熱気球

山田町 長田 昭子

文化祭のイベント「熱気球に乗ってみませんか」と言うセンターだよりを読んだ時には思いもしませんでした。当日、皆さんが乗りに行かれたと聞いて、私もちょっと不安でしたが、童心にかえり、思いきって乗ってみようと思いました。
地上三十メートルは、好天に恵まれ、気分満点でした。
上空での五分間はあっという間で、山田をゆっくり眺めている余裕はなく、ただ下を歩く人の小さく見えた事のみ頭に残っています。
又チャンスがあれば、もう二十メートル程高い所から、ゆっくりと小山田を眺めてみたいと望みを馳せている私です。



わたしの 町から 団体から

小山田鼓笛隊 二十周年記念演奏会

中村 實

今年初めての積雪で、寒
中、演奏を聞いて下さった大
勢のお客さん方と、会場を一
段と盛り上げて頂いた出演
者、川島竹の子鼓笛隊、浜田
キュティトワラズ、OBの
有志、吉田先生等、最高のム
ードの内に、二十周年演奏会
を終えることができました。
心から深く皆さんにお礼申
し上げます。

毎週一回土曜日、二時間だ
けの練習ですが地区の行事を
始め、様々なイベントに、演
奏フェスティバルにと沢山の
機会に皆さんに聞いて頂いて
います。
毎年隊員が卒
業などで、次々
と入れ替り、20
年と言ってもい
つも一年生で
す。でもその時、
その時一生懸命
演奏していま
す。二十五年、
三十年と続いて
行きたいと思っ
ますので、今後
とも応援して下
さい。



立派なしめ縄ができました

感謝の心でしめ縄づくり

山田町老人会 矢田信夫

山田町老人会は神社総
代と協力して、氏神様で
ある加富神社に感謝の心
で、毎年七月五日は境内
の草刈りと、十二月二十
五日には迎春準備の奉仕
をしております。
迎春準備の作業は、大
小合わせて十本のしめ縄
を作り、古いのと取り替
えます。
又、ご神木のしめ縄も、
全部新しく作り替えま
す。
その他に、「どんど」の
穴堀と薪組みや、二箇所
に門松を飾りつけ、境内
の清掃を行います。
当日は約五十名が午前
八時三十分から作業にか
かり始めすつかり準備が
整うのには四時間程かか
ります。
縄をなう者、薪を運ぶ
者、境内を掃き清める者、
「もつと張って、もう少し
上ノ」と出来上ったしめ
縄を取り付ける者、寒い
中での作業ではあります
が、美しくなった境内と
同様に、皆の心は清々し
くきつと初詣出の人々
も、この気持ちに浸って
いただけただけだと思います。

力石

六名町 田中弘治郎

「力石」とは六名町、竹内登さん宅の木戸入口
左側に建っている石なのです。

高さ六十センチ、厚さ二十二センチ、幅は上部
二十センチ、下部三十センチの瓢箪型で、重さ約
七十五キロ。

氏神須賀神社境内で、若衆連中が、力自慢を競
つて、持ち挙げ何回、担ぎ何回と競争しました。
中央部に凹があるので、担ぎやすいとのことだ
した。

約八十年位前（大正初期）から現在位置に移り
ました。

その後、力石を使つての競技は中断されたよう
です。

この力石は市内でも数少ない文化遺産でありま
す。

〔四日市大学助教授 高島慎助氏の研究、調査によ
り、四日市市に現存する力石が明らかにになりまし
た。小山田地区では、他に旧山田町公会所南隣の
倉庫（宮崎直人氏所有）の木戸石がそうです。機
会があったらご覧ください〕





防火ポスターコンクール

子供育成会 矢田節男

この会は、地区内の子供会育成者の連絡を密にして子供会活動の健全な育成を図ることを目的とし、目的達成に向け野外活動、体育活動、文化活動等必要な事業を行っています。

数ある行事の中から、毎年十一月小学校体育館で行われている、防火ポスターコンクールを紹介いたします。

このコンクールは地区文化祭協賛行事の一つとして、日頃から火の元に注意を払い火災の予防に関心を高めるために行っています。

審査当日には、四日市市南消防署長を始め、各種団体の長により審査が行われ集団下校の集会を利用して表彰式が行われます。

そして翌日の小学校PTAバザー開催時に一般公開され、見る人に火災の恐しさや防火対策など、子供の強い精神力を感じさせてくれます。

薬師如来・地蔵菩薩堂

堂ヶ山町 伊藤敏信

十月に遠生寺薬師如来、地蔵菩薩堂が古い観音堂から新しく建てかえられました。建立にあたって、地蔵菩薩も新しくなりました。

前の観音堂は、天保年間(約百十年前)に薬師山から移築されたものだそうです。

又薬師如来像は鎌倉前期に作られましたが、明治十三年に修理(体内から証明書が出た)された為に市文化財には指定されていません。

長い間、地域の人々の病氣祈願に厚く信仰されてきています。



薬師如来・地蔵菩薩堂



薬師如来

制服リサイクル

西陵中学校PTA 伊藤恭子



中学生は発育ざかり。「一年間でサイズが合わなくなつた。」「洗い替えにもう一枚ほしい。」

そんな声から生まれた制服のリサイクル活動も今年で二年目です。

提供して頂いた数十点は、母親部で補修、クリーニングをし、すぐ着られる状態で販売しましたが、ほぼ完売と盛況でした。

お金を出せば、何でも買える時代ですが、物を大切に、この活動をどんどん利用してほしいと思います。

二つの出前公演会

小山田小学校PTA 平尾幸美



12月11日(土)小山田小学校体育館にて

国際貢献が取り沙汰される昨今ですが、小山田つ子にも途上国の現実を見る機会をとちやりティ公演会を開催しました。

四日市商業高校ギターマンドリン部の演奏の合い間に、ユニセフ広報普及委員の杉谷

先生に、飢えや病いに苦しみ死んでいく子供達のお話をさせて頂きました。

小さい子供達には少し難しかったようで、集中できない人達もいましたが、中には「話を聞いてじんときたよ。」と何かを感じた子や、初めて聴いたマンダリンの音色の美しさに感動したと話してくれたお母さんもいました。

舞台には、この日のために子どもたちが飾りつけてくれた大きなクリスマスツリーやシクラメンの鉢が飾られ、賛助出演として小山田鼓笛隊の子どもたちも参加してくれました。

初めての試みで準備も大変でしたが、このような公演会が、その場限りの支援で終わることなく、地球上の全ての子どもたちの幸せにつながっていくことを願っています。

この人尋ね

伊勢型紙の 伝統を守って

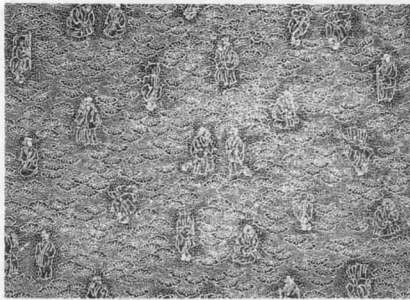
山田町 矢田 昇さん



物を作るといふことに魅力を感じ、型紙彫刻を始めて四十年になる二代目、矢田昇さん宅を訪問しました。

伝統的な技術によって作られる型紙は、着物の生地に紋様を染めるのに用いられるほか、美術品としての価値も高いものです。

彫刻する紙を十枚重ね、数百本の手作り道具の中から図柄に合った道具を選んでいくには、集中力と根気が必要とされます。



(記 矢田節男)

す。日本的な落ち着いた雰囲気を出し、目、勘を頼りにして細かい彫刻に打ちこんでいます。

ムラのないよう太さのちがわないよう注意をして彫る事が大切で、なかには一カ月もかかるような作品もあり「完全」をめざして彫り続け、これに近いものが出来上がると、一番嬉しいのですが、出来上がり具合でやり直すこともあり、ムラなく染め上がるかという心配はいつも募ります。

技術的にはとても大変で、計算できるものではないという難点もあり、職人さんの意気込みを感じました。

苦勞ばかりだが、この型紙の彫刻を生涯続けられたらと思う、今も一生懸命彫刻に励んでみえます。

ややもすると、忘れがちな伝統産業。後継者があらわれ日本の文化をひきついでくれることを願っています。

文芸らん

川柳

- 記念樹を囲み二十歳の子に語る
- どんな娘になるのか
- 孫の髪をとく

山田町 矢田まさ子

- 水鳥も油まみれに海の事故
- 菊花展に負けぬ我が家の菊の鉢

鹿間町 酒井 三春

- バレンタインチョコで孫に株上がり

内山町 矢田 哲

俳句

- 荷を解かぬ前にメロンと知る香り
- 芋の葉に今落ちるか
- 露の玉

鹿間町 酒井 三春

小山田経費老人ホーム俳句同好会

- 初天神合格祈願の絵馬ばかり
- 絵馬ばかり
- 志せい
- 玻璃刷けば老の館も
- 志せい
- 新春めきて
- ちいこ

- 我が焼きし土器をかざりて
- 初茶湯
- 木枯に運ばれてゆく救急車
- しのだ

- 大欠伸して立ち上る小正月
- 吉岡

麦笑

短歌

- 倒状の稲穂拾いつ一人言
- 農夫やつれし凶作の秋
- ドクダミの真白き花に魅せられて椅子に坐りてしばし楽しむ

鹿間町 酒井 三春

- さざんかの花に残りし初雪に今別れきし人のなごりか

内山町 矢田 哲

地区の人口 5,881人

(平成6年1月1日現在)

町名	世帯数	人口		計
		男	女	
山田町 (内老人ホーム)	970 (483)	915 (137)	1,209 (359)	2,124 (496)
鹿間町	266	448	478	926
西山町	180	321	341	662
小山町	148	296	303	599
堂ヶ山町	111	246	252	498
和無田町	102	204	202	406
内山町	57	100	114	214
六名町	49	97	93	190
美里町	45	135	127	262
計	1,928	2,762	3,119	5,881

お茶サークル

山田町 富田鈴子

私達は数年前から、市民センターで月三回、お茶(お花も)を高井茂千代先生に習っています。

本年度は初めて、文化祭を見に来て下さった方に、午前中はお抹茶、午後はお煎茶をサービさせて頂きました。

「おいしかった!」「お煎茶のお手前は初めて」と皆さんに大変喜んで頂いて、とても嬉しかったです。



出来れば、来年も続けていたらと思います。皆さん文化祭にはぜひ、お越しください。

編集後記

今号は急速に進む高齢化社会をテーマに地域福祉を特集に組みました。

又、各町や各種団体の行事をいろいろと取り上げてみました。

ご寄稿いただきました方々に厚くお礼申し上げます。尚、紙面の都合上原稿の一部を割愛させて頂きましたがご了承下さい。

今後とも地域社会づくりにご協力をよろしくお願い致します。

文化広報部長 豊住 満